

科目区分：特別支援教育に関する科目

科目名：発達障害児心理検査法 担当教員：吉松靖文・荻田知則

オムニバス形式による実習形式授業

特別支援教育講座・吉松靖文

1. 授業の概観

本授業は、発達障害児や知的障害児の特性を評価し、教育支援に活かす実践力を身につける授業である。発達検査の理論に加え、各種発達検査の特徴や結果の解釈について学校現場で必要とされる基礎的な内容を身につけることを目的とした。

本学教員2名に加え、実地指導講師2名によるオムニバス授業である。

取り上げた検査は、新版 K 式、田中ビネー、K-ABC、WISC-III、DN-CAS、PVT-R、ことばのテストえほん、構音検査であった。

検査毎に特徴についての解説、受講生同士による検査の実習、結果の解釈についての解説及び実習を行った。

2. 授業評価法

無記名による7点尺度ないし4点尺度のマークシート及び記述式のアンケートを行った。各項目については図1、2の通りであった。

本アンケートが受講生の成績に一切影響せず、授業に対する自由な回答を保証するために、本学の成績提出締め切り日を過ぎた2月24日(金)とした。

3. 授業評価結果

受講者24名のうち19名から回答があった(回収率79%)。各質問項目についての受講生からのコメントは以下の通りであった。

問い1:「教材の提示、資料の配付は適切に行われたと思いますか？」

「そう思う」(ややを含む)と答えた受講生のコメント

- ・ 検査内容や評価の資料があり、分かりやすかった
- ・ どの検査においてもまとまった資料が配付され検査用紙、道具も見ることができたから
- ・ すべての検査で検査用紙のコピーがほしかった(復習で役立つので)

資料がもう少しほしいと感じる検査があった

問い2:「教員の講義の進め方は適切だったと思いますか？」

「そう思う」(ややを含む)と答えた受講生のコメント

- ・ 実際に検査の体験をすることができ、よかった
- ・ 理論だけでなく体験的に学習できわかりやすかった
- ・ 実習がよかった

「どちらとも言えない」と答えた受講生のコメント

- ・ 講義自体はパワポを用いて知識を得たあと実習する機会があったが、時間が詰め込みすぎてきたから

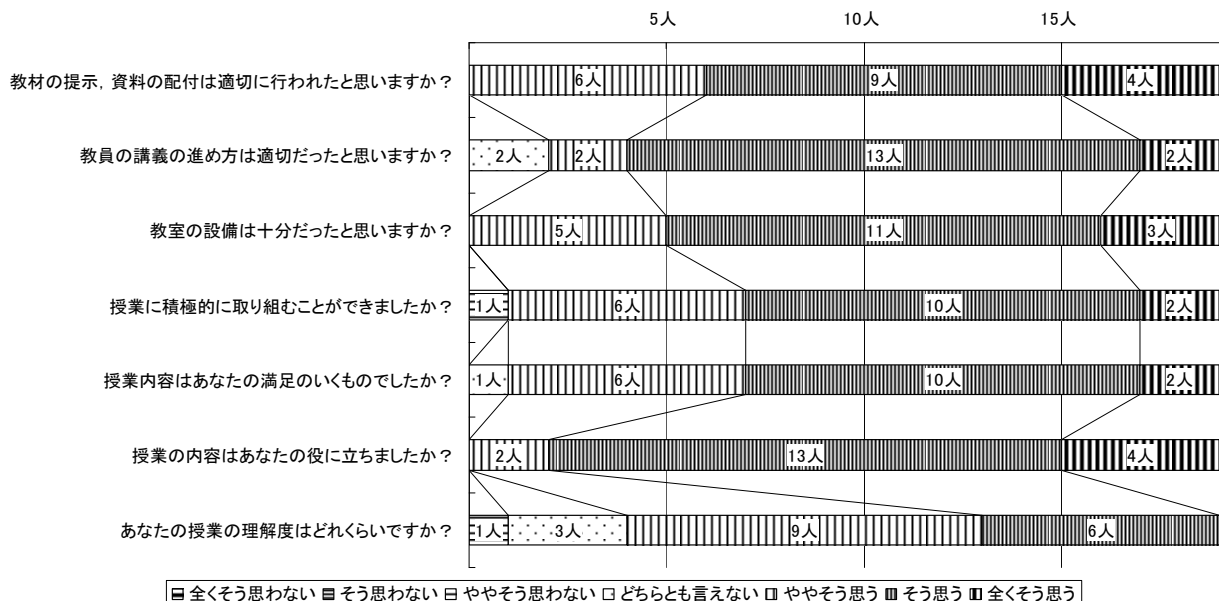


図1. 授業に関する評価(7点尺度)

問い 3:「教室の設備は十分だったと思いますか？

「そう思う」(ややを含む)と答えた受講生のコメント

- ・ 温かかった
- ・ 十分だったと思います
- ・ 検査道具がもっとたくさんあったらよかった

問い 4:「授業に積極的に取り組むことができましたか？

「そう思う」(ややを含む)と答えた受講生のコメント

- ・ 実習に意欲を持って取り組めた
- ・ 実際に検査をやってみる活動は特に興味を持って取り組むことができた
- ・ 検査の体験がたのしかった
- ・ 検査など学ぶとき積極的に取り組めたから

問い 5:「授業内容はあなたの満足のいくものでしたか？

「そう思う」(ややを含む)と答えた受講生のコメント

- ・ 様々な検査について触れていたから
- ・ 知らないことだらけでとても勉強になった
- ・ それぞれの検査法が名前だけでなく、どのようなものかを知ることができてよかった
- ・ 今までの授業に出たことのあった検査が分かり、疑問が解決された

問い 6:「授業の内容はあなたの役に立ちましたか？

「そう思う」と答えた受講生のコメント

- ・ 名前しか知らなかった検査について詳しく学べたのでよかった
- ・ 知識が増えたから
- ・ 教員採用試験にも出るので分かってよかった

問い 7:「あなたの授業の理解度はどれくらいですか？

「ややそう思う」と答えた受講生のコメント

- ・ まだ曖昧なところもあるため

「どちらとも言えない」と答えた受講生のコメント

・ 検査によって理解にばらつきがあるから

「ややそう思わない」と答えた受講生のコメント

- ・ すべての検査をいっぺんに網羅しすぎて、知識などの整理がむずかしかった。1つの検査ごとにまとめの小テストなどがあればよかった

以上のようにほとんどの質問項目で肯定的評価を得ることができた。また、コメントも肯定的な者が多かった。しかし、改善を促すべき点も明らかとなった。検査用紙のコピーがほしいという点については原則的に配布することは著作権等の問題により不可能である。しかし、その点を受講生に説明する必要があったと思われる。取り上げた検査が網羅的であるという指摘については、コメントにもあるように小テストの実施などによりさらにわかりやすくする工夫が必要である。

DPの達成について

本授業が該当するDPの項目は「知識・理解」である。図2の通り「知識・理解」について向上していないとする者は1人であり、ほとんどはDPが達成されたと評価していた。本授業に該当しないDPの項目においても半数以上が肯定的に達成を評価していた。

4. まとめ

以上のように多くの受講生から高い評価を得ることができた。一方で、まだ改善の余地も見つかった。それらの点については、来年度の授業の改善にいかし、DPの達成100%を目指したい。

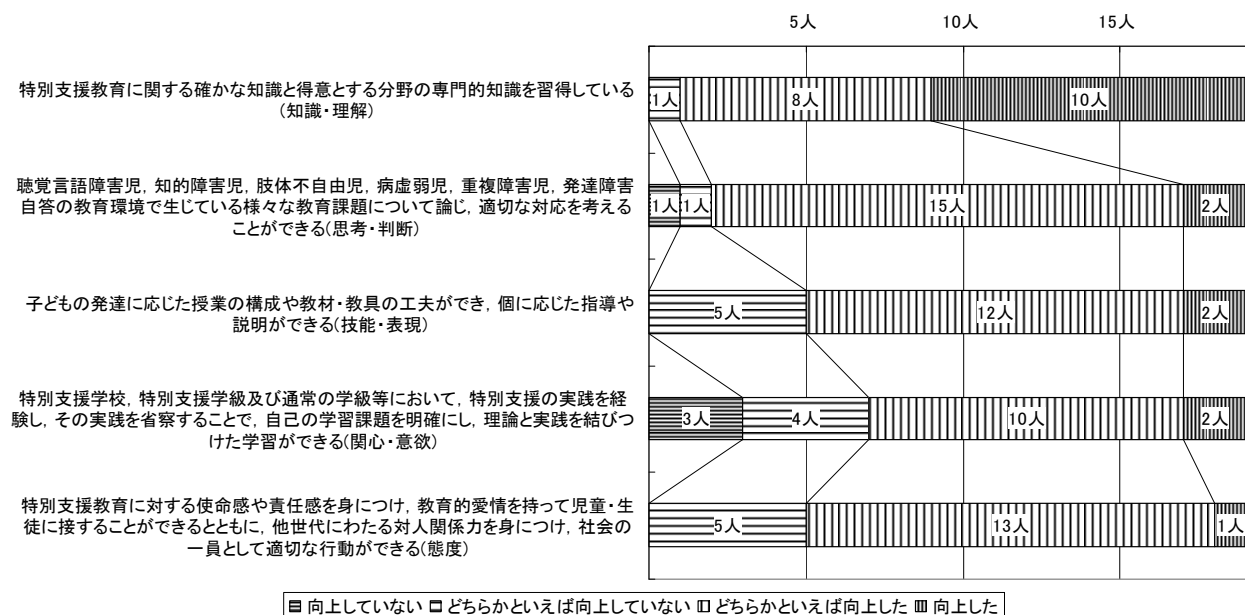


図2. DPに関する評価(4点尺度)